

第2章

農業活動の種類と効果

I 農業活動の種類

農福連携の農業分野での取組みを農業活動といいます。農業活動は、農的活動、ゆるやか農業、農業の3段階に分けられ、生活困窮者自立支援制度における事業との対応は以下のようになります。

① 農的活動＝訓練・ケア等

農的活動は生業ではなく、農産物の生産活動を通じた健康づくり、生きがいづくり、社会参加、リハビリテーション、レクリエーション等が主な目的となります。ただし対価・謝礼を得られることもあります。就労に向けた準備を要する方には、体調の良いときに短時間だけでも農作業ボランティアなどとして農作業に関わる農的活動が向いています。農的活動に関わることで心身の状態を改善したり、生活リズムを整えたりすることが期待できます。また、社会との関係性を築くことで、居場所にもなります。

② ゆるやか農業＝柔軟な勤務形態

ゆるやか農業は、ゆるやかに農業に従事するもので、農産物を生産し、報酬を得られる場合もありますが、主な目的は社会参加、就労経験を積むこと、生きがいづくり等となります。一般就労に向け、一定程度の準備が整った方や支援付きの就労訓練が必要な方等には、状況に応じた勤務ができるゆるやか農業が適しています。勤務経験等を通じて、スキルや自信、勤労意欲を高めます。

③ 農業＝就農

農業は農産物を生産し、生活のためにその対価を得ることが主な目的となります。本格的な就農として、農業法人への雇用や独立を支援するとともに、定着を図るステージです。もちろん、本人の意志に応じて農業以外の産業に就職するのも一つの道です。

生活困窮者自立支援制度における農業活動の活用方法

一人ひとりの状態・環境・意志に応じた自立・就労へのステップ

訓練・ケア等

農的活動

すぐに働くことが難しい人は、農作業ボランティアなどとして農的活動に関わり、体調や生活リズムを少しずつ取り戻します。農的活動は社会的な居場所も提供します。

中間的就労

ゆるやか農業

一定程度働ける人は、ゆるやか農業に関わります。ここでは、認定就労訓練事業所等で支援付き訓練を活用し働くことへの意欲喚起や、一般就労に必要な業務の遂行能力、コミュニケーション力を高めるなどの支援が考えられます。

就農

農業

農業法人に雇用されたり、独立したりして本格的に就農します。所得を得て生計を立てていきますが、定着するまで継続的な支援が必要です。



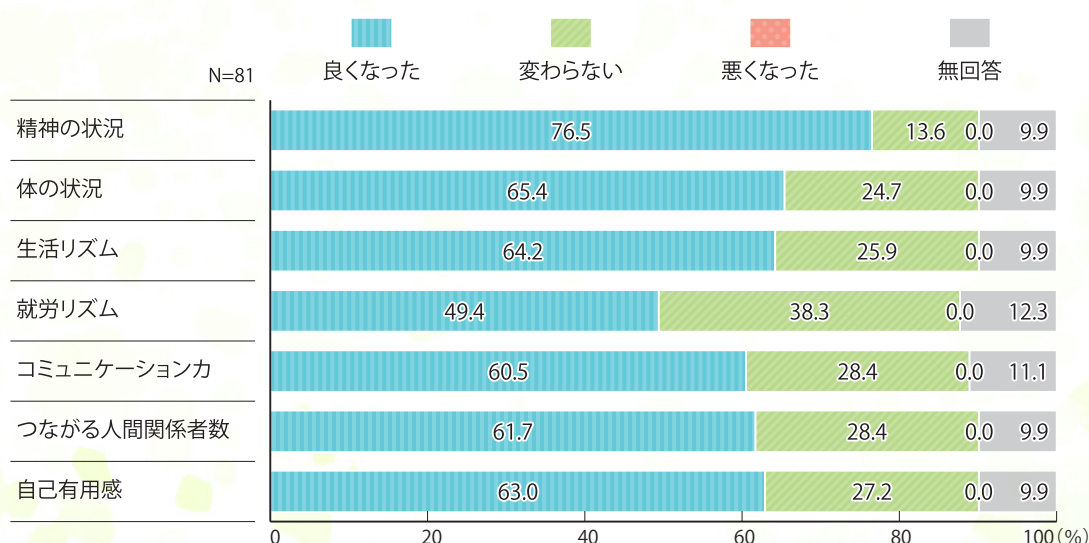
II 生活困窮者への効果、農業・地域への効果

アンケート調査結果（就労準備支援担当者向け）

JA共済総合研究所では、令和2年度に生活困窮者自立支援制度に基づく事業を実施している全国の自治体・団体にアンケート調査を行い、うち、農福連携を実施している団体に生活困窮者への効果を尋ねました。

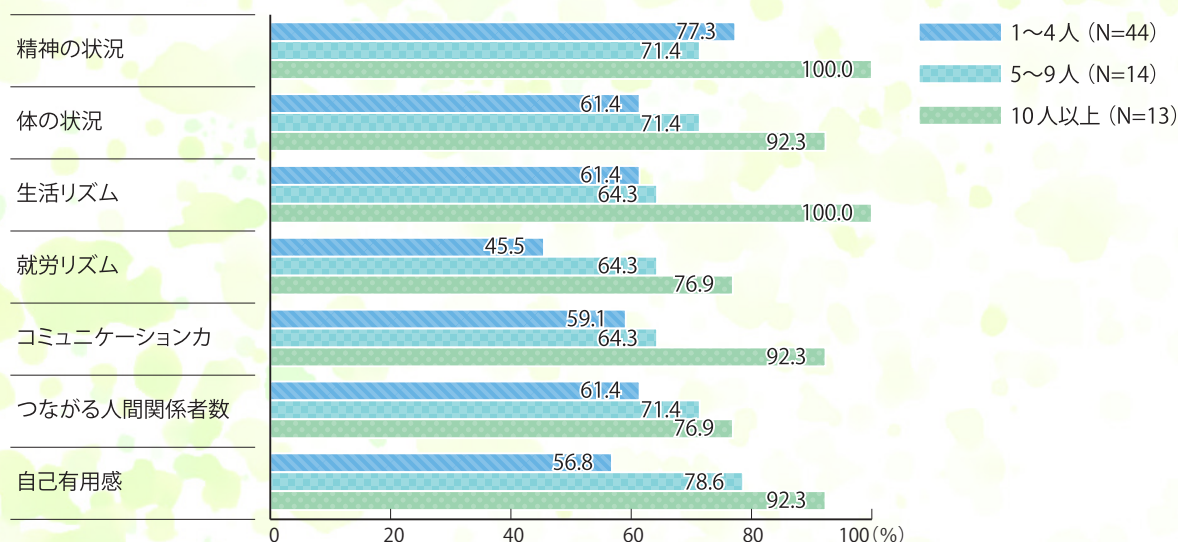
その結果、「良くなった」の割合は〈精神の状況〉で最も高く76.5%に達しました。その他〈体の状況〉（同65.4%）、〈生活リズム〉（同64.2%）、〈自己有用感〉（同63.0%）、〈つながる人間関係者数（知人・友人等の付き合い合う人間関係の数）〉（同61.7%）、〈コミュニケーション力〉（同60.5%）なども6～7割の自治体・団体で効果を認めています。

農業活動の実施による支援対象者の変化



「良くなった」の割合を農業活動参加者数別にみると、どの項目においても参加者数が多くなるにつれ高くなる傾向が顕著です。農業活動は多人数で行う方が支援対象者への効果が高いと言えます。

農業活動の実施による支援対象者の変化「良くなった」の割合（農業活動参加者数別）



生活困窮者への効果

農業活動に取り組むことで次のような効果が期待できます。

① 社会参加のためのきっかけづくり

動植物を対象としたり、自然の中で地域住民や支援者等と共に農業活動に取り組んだりすることで、社会参加の新たなきっかけになります。

② 自己肯定感の向上

農業にはさまざまな作業があり、体力に自信がない方でもできる作業やコミュニケーションが少なく済む作業、木工や草刈り機・トラクター等の機器の操作といった得意なことを生かせる作業などを行うことで、自分に合った作業ができること、動植物を育てること、生産物をつくり感謝されることなどを通じて、自己肯定感を高めることができます。

③ 身体機能の向上

自然の中で自分に合った作業、自分のペースに合わせた作業を行うことで体力などの身体機能を高めることもできます。

④ コミュニケーション力の向上

農業は共同作業を行うことも多いため、他者とのやり取りによりコミュニケーション力の向上につながります。また地域のさまざまな人々との関係を持つことも可能です。

⑤ 生活習慣の確立

農業は朝起きて、日中仕事をして、夕方には仕事を終わるといった一定の規則性のある時間の流れの中で作業をします。また自然と相対し、体を動かすことで、体のリズムが整いやすくなります。

⑥ 就労訓練

さまざまな作業の中で自分に合った作業を見つけ、自分にできることから就労に向けた訓練をすることができます。

⑦ 新たなキャリア形成

農業という新しい経験を積むことができます。



取組みの内容・効果（担当者からの声）

- さまざまな種類の作業のある農業は、ひきこもりがちな方には向いていることを選ぶことができるため、とても良い作業プログラムとなっています。そしてその農業をした経験を生かして就農に向かうことができます。
- 継続して実施することで、高い効果を発揮しています。熱意を持って関わるのが効果に差が出るものと感じます。
- 利用者が自ら育てたいと思う作物、食べたいと思うものを率先して栽培してもらうことによって、興味関心を持ってもらえるよう取り組んでいます。
- 連携している農園での作業は就労訓練として非常に有意義であり、今後も工夫して実施していきたいと考えています。具体的に言えば農園での経験を踏まえて、次のステップとして個別に農家さんでの就業体験をさせていただける機会があれば、利用者にとっては「仕事」に近づける良い実践となるのではないかと考えています。やはり訓練よりも実際に社会に近い場所で働いて「仕事のペースを体験する」ということが必要な利用者もおり、就労へつながるためのサポートとなりうる経験を提供できるのではないかと思います。
- 外に出て農作業に従事しハウス等で体を動かすなどの訓練を行うことで、自然と体力がついた、疲れて眠れるようになった、お腹が減り食事を摂るようになった、などさまざまな課題の改善が図れているのを実感しています。農家さんにとっても、短時間で効率が良い働き手として感謝され、就職にもつながるなど、良い連携が図れており、今後も継続し、必要があれば拡大していきたいと考えています。
- 就労準備支援事業としてではなく、県、市、JA等さまざまな機関と連携し農福連携に取り組んでいます。農業従事者に、生きづらさを抱える方たちに対し、理解してもらえるような働きかけや、農業を通じての就労、居場所づくりができるよう取り組んでいます。
- 理解ある生産者に協力を得られ、スムーズに取り組めています。農業法人のため、規模も大きく、合宿も含め、お願いしています。同じ時期であれば、同じ作業のため、職員が要領を得ているため、対象者の把握に集中できています。
- 関わりに苦手意識があったが、この事業を経験したことで、農作業をされている他者とのコミュニケーションをとることができ自信をつけたようで、現在は、農産物を生産出荷している親族の手伝いをしています。
- さまざまな背景を抱えた方が取り組むプログラムの一つとして、農作業も準備しています。農作業は作業を切り分けやすく、その人に応じたいろいろな作業を準備することができ、スモールステップにつながると感じています。農作業は室内の内職より自分に向いているかもしれないと話している方は多いと感じます。全く農業に興味を持たない方もいらっしゃいます。その方に応じたさまざまな支援プログラムを準備しています。
- 当センターでも、地域の農家や農業に取り組む特例子会社で草刈りや収穫のボランティアに行かせていただきました。ひきこもり状態にある利用者にも植物や動物の仕事は対応しやすいと思えました。今後、積極的に農福連携に取り組む予定です。

農業・地域への効果

① 労働力不足への貢献

農業に適性のある新たな人材を発掘することにつながります。また新たな労働力、そして担い手となる可能性もあります。

② 職場環境の改善

多様な人々が共に働くことで、他者を思いやる雰囲気が醸成されるといわれています。また、より分かりやすい指示を心掛ける、作業の安全性を高める配慮を行うことなどにより、誰もが働きやすい職場になっていきます。

③ 作業の改善

参加者の能力を引き出すために作業工程や作業内容を見直します。その結果、経験が少なくても、農作業に従事できるようになったり、場合によっては作業の効率化につながったりすることも可能となります。

④ 交流・共生の機会創出

さまざまな人々が農業活動を通じて交流できます。

⑤ 地域産業の活性化

農業などの地域産業の維持・活性化などにつなげることもできます。

